

# 平成28年度内閣府 地震・津波防災訓練 【神奈川県茅ヶ崎市】

実施報告書  
(概要版)



## 神奈川県茅ヶ崎市について

茅ヶ崎市は、神奈川県の中南部、東経139度24分、北緯35度19分に位置し、東京から西に50キロメートルあまり、東は藤沢市、西は相模川をはさんで平塚市、南は海岸線約6キロメートルに及ぶ相模湾、そして北は寒川町と接しています。面積は35.76平方キロメートル、東西6.94キロメートル、南北7.60キロメートルで、周囲は30.46キロメートルに及んでいます。

気候も四季を通じて温暖という環境から、明治から昭和初期にかけては湘南の別荘地、保養地といわれてきました。こうした自然に恵まれた住みよい条件のなかで、昭和22年10月、神奈川県下で8番目の市として市制を施行し、昭和30年4月には旧小出村との分村合併により現在の市域となりました。その後、東京、横浜への交通の利便性や恵まれた自然環境を背景に急激な都市化が進み、平成元年12月に県下で7番目の20万都市に発展しました。



地図出典：国土地理院

参照：茅ヶ崎市ホームページ

## 訓練概要

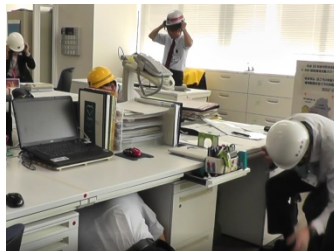
- 訓練想定：11月5日09:30に相模湾沖を震源とするマグニチュード8.2の大地震が発生。気象庁は、「相模湾・三浦半島」に大津波警報を発表した。震度6強の揺れに見舞われた茅ヶ崎市では、いたるところで道路が損壊、民家のブロック塀等が倒壊し、通行が困難の様相である。
- 実施日時：平成28年11月5日（土）09:30～12:00
  - 第1部 安全確保訓練及び津波避難対策訓練 09:30～
  - 第2部 避難所活動訓練（応急救護、防災講話等）10:00～
- 主催：内閣府、茅ヶ崎市
- 参加者数：約5,000名
- 参加機関：浜須賀地区まちのちから協議会、津波一時退避場所協定締結施設、浸水想定地域内の公立小中学校、消防署・消防団、茅ヶ崎市立病院、茅ヶ崎警察署、茅ヶ崎地区交通安全協会、サーフ90茅ヶ崎ライフセービングクラブ、日本サーフィン連盟茅ヶ崎支部、海上保安庁湘南海上保安署、横浜地方气象台、陸上自衛隊第4施設群

## 当日の訓練内容

### 09:30～ 安全確保訓練

地震の揺れから身を守る安全確保訓練を、訓練参加者の自宅や海岸、各学校施設等で行い、緊急地震速報認知時や発災時の行動について確認した。

#### ▼市役所での行動



#### ▼浜須賀小での行動



### 09:32～ 津波避難訓練

訓練対象地域内住民の一時退避場所への避難行動、茅ヶ崎海岸からの避難誘導を実施。住民各人による退避場所、避難経路についての確認や海岸からの避難誘導要領の確認が行われた。また、汐見台小学校などでは、児童の上層階への避難行動が行われた。

#### ▼海岸からの避難



#### ▼浜須賀小への避難



### 10:00～ 避難所開設・応急救護

浜須賀小学校に避難所を開設し、避難者の受け入れを行った。また、自主防災組織・市立病院・消防による応急救護訓練を実施して、トリアージ等を含む災害医療の要領について、参加住民の理解を深めた。

#### ▼避難者受付



#### ▼応急救護活動



### 11:05～ 防災講話等

気象庁職員による津波防災講話を通じて、津波の基礎知識及び身の守り方に関する理解を深めた。講話終了後、避難者に対する物資配給訓練、自衛隊の協力による炊き出し訓練が行われた。

#### ▼防災講話



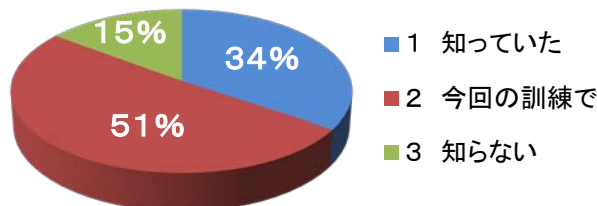
#### ▼炊き出し訓練



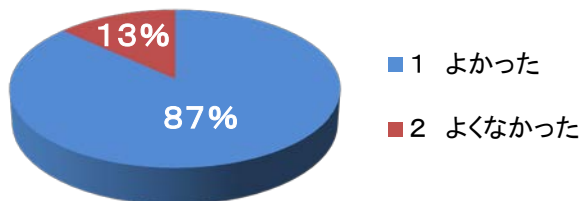
## アンケート結果

住民の方々の地震・津波対策に関する意識や取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（回答数：299人）

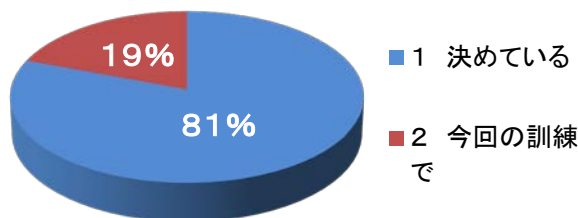
問 1 1月5日が「津波防災の日」であることをご存じでしたか？  
（回答数：299人）



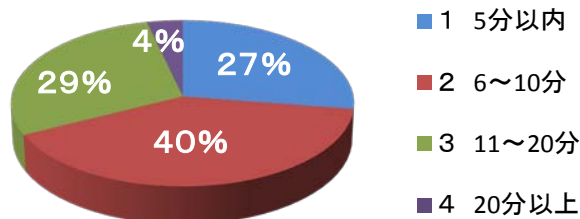
問 地震・津波防災訓練に参加してどう思いましたか？（回答数：287人）



問 日頃から津波の避難先を決めていますか？（回答数：285人）



問 大津波警報から避難先に避難するまで何分かかりましたか？（回答数：219人）



## 訓練の評価

訓練当日は、天候にも恵まれ、小・中学校の児童や生徒、茅ヶ崎海岸のサーファー、浸水想定地域内の住民並びに市職員や関係機関を合わせ、約5,000名が、終始熱心かつ真剣に地震・津波避難訓練に取り組んだ。

避難訓練に引き続き、浜須賀地区住民の参加を得て、浜須賀小学校において避難所活動訓練（応急救護訓練、防災講話、物資配給訓練、炊き出し訓練等）が実施された。

以上の訓練結果と避難所活動訓練に参加した地域住民のアンケート調査結果等を分析し、今後の防災対策や防災訓練の参考となるよう整理した。

この結果、「津波に対する正しい理解のもと、防災に関する意識が高まった」という評価の一方で、「今回の避難所活動訓練は、応急救護訓練の見学や防災講話、来賓挨拶主体の構成であり、住民参加型の訓練方式も検討して欲しい。」という意見もあった。

また、地震発生後の5分後に津波が到達するという想定に対し、『5分以内に避難先に避難できたという住民は約27%』であり、住民個々の避難場所選定上の課題も明らかになった。